

サービス改善計画書

策定日：令和5年3月15日

事業・サービス名：放課後等デイサービス

施設・事業所名：マザーズ野洲

自己評価項目	評価結果	問題点・課題	改善内容と目標	時期と期間	責任者	備考 (必要な予算等)
3-事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		身体障害児の受け入れをしていないので、職員が必要を感じていない。この項目が当事業所にそぐわないのではないかと。	レイアウトの変更等、できる範囲で配慮を行う。今後バリアフリーの配慮が必要な児童が通所する場合は迅速に対応する。	4月から開始。1年間で達成	筈井	
7-第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		第三者による外部評価を受けていない。評価を受けるためには経費がかかる。	第三者評価を受けられるよう働きかけていくが、それまでの間は社内コンプライアンス室が中心となり、自己評価結果から抽出した課題の改善に向け動いていく。	4月から開始。1年間で達成	筈井	
23-学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		現在対象者がいない。	移行する利用者が出てきた場合にすぐに対応できるよう準備しておく。	4月から開始。1年間で達成	筈井	
24-児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		ケース会議には参加しているが、現状児童発達支援センターから助言や研修を受ける機会がない。	こちらから児童発達支援センターに連絡し、助言や研修の機会を作ってもらおう。ケース	4月から開始。1年間で達成	筈井	
25-放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		コロナのこともあり現状交流の機会を作れていない。利用児童の保護者にニーズが感じられず、逆に障害をオープンにしている家庭もある。	地域のイベントへの参加やバザーの出店など、少しずつ交流の機会を増やしていく。	4月から開始。1年間で達成	筈井	
36-事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		コロナのこともあり現状は親と兄弟までの参加に止めている。地域住民を招待するほどの大きなイベントを開催するにはまだ体制が整っていない。	地域交流のイベント（田植え、バザーなど）を少しずつ開催していく。	4月から開始。1年間で達成	筈井	